



関係団体の組織強化と再編を呼び掛ける四方会長=7月31日、金沢市内

21年度総会を開催

運動協会に結集しよう！

本会は7月31日、金沢市のホテルで平成21年度定期総会を開きました。総会では、本年度の事業計画と予算のほか、役員体制などを決定。また、植木光教・世界連邦運動協会会長亡き後、関係4団体が同運動協会に結集し、実効ある組織への再編を目指すことを決議しました。

運動の趣旨を若い人に

総会には、来賓を含め70人が出席しました。冒頭、四方会長は「戦後、世界連邦都市宣言を行う自治体が燎原の火のごとく広がったように、今後は運動の趣旨を若い人に

会長は「戦後、世界連邦都市宣言を行う自治体が燎原の

いまひとつの世界を

世界連邦宣言

自治体協新聞

発行
世界連邦宣言自治体協
全国協議会
(事務局=綾部市)
〒623-8501綾部市若竹町8-1
TEL(0773)42-3280
FAX(0773)42-4406

訴え、浸透させる必要がある。しかし、先人・先輩が守ってきた火を大きくしようとしてもなかなか大きくならない。植木会長亡き後、世界連邦運動関連団体の代表者と今後の運動の在り方について話し合った結果、関連団体が結集して世界連邦運動協会の組織強化を図るという考えで一致した。本日は、このことについても忌憚のないご意見を」と述べました。

再出発を目指す
議事では平成20年度の事業報告と決算、21年度の事業計画と予算、21・22年度の役員などを承認。この後、本会の立場で世界連邦運動協会支部の組織強化を図ると共に、世界連邦運動協会に結集し、実効ある活動ができる組織への再編を目指すことを決議しました。

この決議は、あくまで本会の決意として、組織再編と次年度からの再出発へ努力するというもの。今後、関係団体がそれぞれ同様の意向を固め、11月22日に金沢市で開催される「世界連邦日本大会」で合

同決議を行うことが、新体制の前提となります。

プロジェクトに感謝

総会終了後、その場で研修会を開催。ニシム・ベントリット駐日イスラエル大使とヒシャム・ナサール駐日パレスチナ常駐総代表部一等書記官が、それぞれ中東和平プロジェクトについて次の通りスピーチしました。(要旨)

ベントリット大使
世界連邦宣言自治体全国協議会の努力によって交流事業が行われていることに感謝する。中東情勢は遠く離れた地では理解しがたいもの。現地も複雑な情勢だが、2つの地域には共通の土壌や平和と安定をもたらす動きがある。過去の過ちを正し、未来の過ち

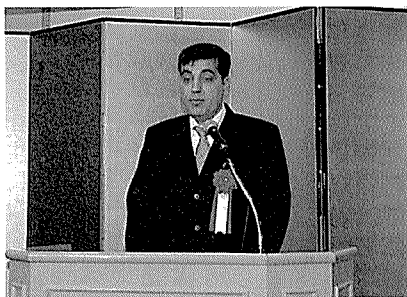
を防ぐ機会もある。つながり合い、学び合おうとする人もあり、平和を勝ち取らなければならぬし、それができると信じている。この取り組みと日本の皆さんに感謝する。

ナサール一等書記官

世界の人々が平和に向け行動することが私たちの願い。パレスチナ、イスラエルの子どもたちには戦争から復興へ、憎しみから和解へと歩んできた日本で多くのことを学んでほしい。日本の皆さんのイスラエルとパレスチナの和解達成への努力に感謝している。2003年から中東和平プロジェクトが継続していることには、日本の平和への想いの強さを感じる。今後もこのプロジェクトへの全面的な協力を約束する。



期待していると信じていると述べるベントリット大使



プロジェクトなどの日本の活動に感謝を述べるナサール一等書記官

中東和平プロジェクト in 金沢

イスラエル パレスチナ 高校生10人が交流



市民交流会で観客席の金沢市民と共に「小さな世界」を合唱する高校生たち=8月1日、金沢市女性センター

イスラエルとパレスチナの紛争で肉親を亡くした子どもを日本に招き、開催市の市民と共に交流する「中東和平プロジェクト」が7月30日から7日間、金沢市を中心に行われました。6回目の今回は、それぞれ5人の高校生が来日。子どもたちはホームステイや料理、市内見学などで行動を共にしながら、和平の早期実現が共通の願いであることを確認しました。

平和に勝る福祉はない

和平へのリーダーに

イスラエル、パレスチナの高校生は2人1組となり、金沢市内でホームステイ。8月1日には、市民交流会に出席しました。交流会にはニシム・ベンシトリット駐日イスラエル大使、ヒシャム・ナサール駐日パレスチナ常駐総代表部一等書記官をはじめ、金沢市民など合わせて約300人が参加しました。

交流会の冒頭、山出保・金沢市長は「金沢は400年間、戦禍にみまわれていない町。平和に勝る福祉はない。戦争に勝る環境破壊はない。戦争の大切さを改めて考える大会に」とあいさつ。来賓として出席した本協議会の四方八洲男会長は「皆さんが和平実現へのリーダーになってほしい」と呼び掛けました。

よく知り理解すること

続いてイスラエル大使が「今日の参加者は、自ら何かをさげようとしている人たち、私たち民族間の溝を埋めようとしてくれている人たちであり、その場所が金沢である。」

私たちの政府にも平和への対話を進めるよう伝えたい」とあいさつ。パレスチナ一等書記官は「このプロジェクトはみんなの平和を支援するもの。だからこそ互いをよく知り、よく理解することが大切。平和的な共存が近く訪れること。また、来日した高校生の皆さんの素晴らしい将来を願っている」と述べました。

小さな平和を大きく

来賓あいさつの後、高校生が一言ずつスピーチ。イスラエルの高校生は「相手の立場を考えると尊敬もできる。人と人をつなぐことが小さな平和。小さな平和を集めると大きな平和になる」「大切な人を亡くした悲しみを乗り越えて金沢に集まった。中東和平



麻生首相と記念写真に納まる高校生たち=8月4日、首相官邸

はいつか現実になる」などと期待を述べました。一方、パレスチナの高校生は「難民キャンプでつらい思いをしているが、希望は捨てていない。和平実現へ尽力したい」「憎しみを乗り越え、手を取り合って平和を実現したい」などと語りました。

この後、金沢市内の小・中学生、高校生たちがそれぞれ平和への思いを発表。最後に参加者全員で「小さな世界」を合唱して閉会しました。

麻生太郎首相が激励

子どもたちは8月4日、首相官邸と参議院を訪問。麻生首相は「昨年の国連総会で、この事業を『日本だからこそできる外交のひとつ』と紹介した。個人的に思い入れの深い事業。イスラエルとパレスチナは厳しい状態だが、この機会が信頼の醸成につながることを期待している。皆さんがイスラエルとパレスチナの将来を担っていくことを期待している」と激励しました。この後、江田五月参議院議長からも激励を受けるなどして、翌5日に帰国しました。